

平成 30 年 度

社会福祉法人 温和会

事 業 報 告 書

目 次

I	概 要	1 項
II	援 助 目 標	1~7 項
III	職 員 の 状 況	7 項
IV	事 業 実 施 内 容	
	1 事 業 の 実 施 状 況	
	(1) 行 事	8 項
	(2) 慰 問 ・ ボ ラ ン テ ィ ア	9 項
	(3) 会 議 ・ 委 員 会 等	9 項
	(4) 保 健 衛 生	9 項
	(5) 防 災 訓 練	10 項
	(6) ク ラ ブ 活 動 状 況	10 項
	2 入 所 者 の 状 況	
	(1) 要 介 護 度 別	11 項
	(2) 入 所 理 由 別	11 項
	(3) 家 族 状 況	11 項
	(4) 年 齢 階 層 別 状 況	12 項
	(5) 最 高 ・ 最 低 年 齢 及 び 平 均 年 齢	12 項
	(6) 入 所 ・ 退 所 状 況	12 項
	(7) 家 族 等 訪 問 状 況	13 項
	(8) 苦 情 ・ 要 望 受 付 状 況	13 項
	3 短 期 入 所 生 活 介 護 事 業	14 項
	4 看 護 業 務 の 状 況	
	(1) 看 護 業 務 (日 常)	15 項
	(2) 外 来 通 院 状 況	16 項
	外 来 通 院 診 療 科 別	17 項
	(3) 入 院 状 況	18 項
	入 院 疾 病 別	19 項
	5 ひ や り は っ と 報 告	20~21 項
	6 職 員 研 修 講 習 受 講 実 績	22~24 項
	◎ ユ ニ ッ ト 目 標 の 反 省 と 評 価	別紙 1
	◎ 入 所 者 嗜 好 調 査	別紙 2

社会福祉法人温和会事業報告

I 概 要

平成30年度は、利用者の重度化により入院日数が例年に比べ大幅に増え、終末期を迎えられ退所された方も多く、入退所の多い慌ただしさを感じる一年となった。

短期入所利用者も、長期入所者の退所に伴い順次長期入所に変更になった為、新規利用者の確保に時間を要し、短期入所事業の利用率を伸ばすことができなかった。

通所事業においては、徐々に居宅介護支援事業所に周知され新規の紹介が増え、また、利用日数を増やしたいと希望される方も多くなり、目標を達成することができた。

今年度も、仕事と生活の充実のためワーク・ライフ・バランスセミナーを開催し、職員交流やリフレッシュを図り、介護職員の定着に繋げることができた。

また、朝光苑建設後15年以上を経過し、施設建物や設備の劣化や故障が生じるようになったため、収支計画に基づき居住棟エアコン空調設備の更新工事等を行い、利用者が快適に過ごせるように住環境整備に努めた。

II 援 助 目 標

特別養護老人ホーム朝光苑

(1) ユニットケアの推進（生きがい意欲の高揚）

ユニットケアの基本理念である利用者一人ひとりの個性や生活リズムに沿ったその人らしい生活を継続するために、平成29年度から24時間シートの導入に取り組んできた。30年度は、食事や排泄等の援助項目のシートへの記入方法を工夫し、生活リズムが確認しやすく、職員間で情報を共有し統一した対応が行えるシートとなっていた。利用者の状態変化によっては、見直し更新する等の変更を行っていた。今年度も各ユニットでは、月に一度の料理やおやつ作りの実施、毎日のビデオ体操、脳トレや塗り絵等のアクティビティの充実に努めた。体力が低下している利用者も増えてきたため、体調を確認しながら見学や短時間からの活動参加を勧めていた。

(2) 食事サービスの充実

栄養ケアマネジメントを通じて課題を検討し作成した栄養ケア計画をもとに、利用者個々の栄養状態の維持改善に努めた。言語聴覚士の評価・指導のもとに一人ひとりに適したミキサー食やソフト食、刻み食等の形態で提供を行ったことで、誤嚥等の重大な事故もなく安全に食事を摂取していただくことができた。新しい行事としてスイーツバイキングを年2回実施し、利用者にも喜んでいただくことができた。

また、適切な食品の温度管理や加熱、調理員の衛生、体調管理により、食中毒等を出すこともなく食事を提供することができた。

(3) 早期の医療対応での安定した状態の維持

看護・介護職員間の連携を密に行い、異常を早期に発見し、早めの受診等で利用者の重篤化を防ぎ回復に努めてきたが、持病の悪化等により終末期を迎え退所される利用者も多い一年となった。急変されたり、最期まで施設での生活を望まれる声も聞かれ、次年度の看取り介護の取り組みへ繋がっていた。

また、在宅酸素使用や吸引等、医療的ケアを要する利用者が多かったことから、毎月の医療的ケア安全対策委員会で技術を見直したり、定期勉強会で継続的に再確認を行い、トラブルなく安全に行えるように努めた。

(4) 感染症対策

定期的に委員会や研修会を開催し、職員に標準予防策の周知徹底を図るとともに、感染症の発生動向に注意し情報収集に努めた。一年を通して消毒薬の噴霧を行い、ノロウイルスやインフルエンザの流行期には十分に注意し予防策に努めていた。今年度は全国的にインフルエンザの流行期が早く、警報レベルの発症が長く、苑内でも数名の利用者と職員の感染が確認されたが、蔓延することなく終息することができた。また、入院中に CRE 感染症が確認された利用者が退院された時に、外部講師による標準予防策についての研修会を開催し周知徹底に努めた。

また、昨年度に続き言語聴覚療法士 (ST) や歯科からの評価・指導を受けながら口腔ケアに力を入れ、毎食後の口腔ケアを継続したことで、肺炎と診断される利用者の増加は見られなかった。

(5) 生活の中での機能訓練

利用者の重度化が進み、全身の関節拘縮や嚥下機能の低下が目立ってきている為、協力病院の言語療法士 (ST) による利用者の日常生活動作や摂食・嚥下能力の評価を受けていた。高齢者は体調を崩しやすいため、状態の変化が見られた時は早期に食事形態や介助方法、必要な口腔ケア等について指導を受け、看護・介護職員が連携し安全で適切なケアが行えるよう努めていた。

(6) 施設機能による地域貢献

地域からのニーズの把握および交流を積極的に行うため、6月に11団体による地域交流懇談会を開催し、当苑の行事や入所者の状況について理解を得るとともに、地域防災協力隊による避難訓練、慰問・ボランティアについて協力をお願いした。

また、地域資源としての当施設の活用および地域行事や会議等に積極的に参加するなど地域の一員として役割を果たした。

7月の苑内行事である納涼夏祭りには、横内婦人部、合子沢婦人会の皆様の手踊り等を披露していただき無事に終えることができた。

地震および風水害等の災害時においては、9月に横内地区社会福祉協議会主催の横内地区防災訓練に参加し、福祉避難所開設運営訓練を見学することができた。訓練では、青森県防災士会青森支部の講師より、避難生活をする上で必要な居住スペースを確保するためのシートを使った区切りや心肺蘇生法、及びシートを使用した搬送訓練があり、福祉避難所開設時の居住空間作りや緊急時の対応方法等について学ぶことができた。

(7) 世代間交流事業の推進

毎年恒例となっている松原保育園の慰問は10月に、また、つばさ保育園の園児には12月のクリスマス会に来苑していただき、歌やお遊戯の披露、プレゼント交換、握手等で利用者は楽しいひとときを過ごすことができた。利用者は、子ども達を前にすると自然に笑みがこぼれ、明るくやさしい表情で接していた。

(8) 朝光苑家族会「朝光会」の推進

今年度は6月9日に朝光会総会を開催し、朝光苑に対する意見や要望を話し合っていたが、特別な苦情や要望の申し出はなく、利用者の近況や年間行事、レクリエーション活動等の報告を通して相互理解、信頼関係の構築に努めた。また、座位姿勢での食事摂取が困難になってきている利用者が増えてきている為、今年度はベッド上側臥位姿勢での食事介助方法について、ビデオを用い勉強会を開催した。意見交換も行い、ご家族の理解を深めることができた。

(9) 苦情解決事業の推進

苦情相談窓口の生活相談員、介護支援専門員は、利用者やそのご家族が苦情や要望等を話しやすい環境作りに努め、第三者委員で構成する苦情解決協議会を3回開催し意見を求めた。平成30年度に寄せられた苦情は、長期入所や短期入所利用者から職員の言動やケア内容について2件あり、また、長期入所者ご家族より要望が1件あり、いずれも解決に至っている。今後も、多職種職員で連携を図り、日常の生活場面から利用者の要望や苦情を取り上げ、利用者の生活の質を向上させることができるように努めていく。

(10) サービスの自己評価の徹底

一年に一度多職種で構成されているサービス評価委員が集まり、79の評価項目に沿って話し合い、現状の課題について話し合うことができた。今年度は、入退所が多く慌ただしさを感じる年度となり、利用者の生活の細かな部分まで配慮できていなかったことを反省し評価していた。また、限られた職員ではあるが、言葉遣いや態度について苦情があった為、施設全体の問題として捉え、厳しく評価していた。リハビリテーションや複数献立等に関する項目はB判定が続き、人員配置や設備上達成が困難な面もあるが、利用者のペースで充実した生活が営めるように、工夫努力していくことを再確認した。

(1 1) 朝光苑防災管理体制の強化および地域防災協力隊との連携強化

防災管理規則に基づき、職員及び利用者による総合避難訓練と夜間想定 of 2 回の避難訓練を実施するとともに、職員に対し防災管理研修会を開催した。

また、不測の事態に備え利用者が迅速に避難できるように、緊急連絡網を使用した全職員による伝達訓練、電話が繋がりにくい場合を想定した災害伝言板 WEB171 使用訓練を実施し、職員の災害等に対する意識の向上に努めるとともに防災管理体制の強化を図った。災害時用備品については、平成 25 年度から確保していた飲料水、衛生用品等の消費期限が迫った為、順次入れ替えを行っていた。

さらに、地域防災協力隊との連携においては、9 月に地域の各関係団体および関係機関の協力を得て、朝光苑地域防災協力隊懇談会を開催した。隊員 48 名の参加をいただき、実際に自動火災通報装置を使用した招集から利用者避難誘導までの一連の流れについて実施し習熟に努めた。

(1 2) ボランティア推進事業

いつでも誰もが、得意な分野でボランティアとして活動できるように、納涼夏祭りの慰問、日常生活介護、行事、園芸療法等のクラブ活動、環境整備等でボランティアの受け入れにあたってきた。今年度も、あおもり園芸療法研究会の方々に花壇の整備、ミニフラワーアレンジメント、押し葉絵作り等で来苑していただき、利用者の余暇時間の充実とともに交流の機会を持つことで生き生きとした時間を過ごすことができた。

(1 3) 職員研修の充実

新任職員研修や認知症介護実践者研修等の苑外研修会へは積極的に参加させ、専門的な知識や技術を深め、他施設職員とも交流を図ることで知見を広めることができた。

また、今年度も青森県喀痰吸引研修会に参加し、指導看護師のもと必要な知識と技術を身に付け、医療的ケアを実施できる職員を増やすことができた。

苑内研修においては、日頃から不安に感じているケア内容についてアンケート調査を実施し、その結果に基づいた基本的な介護技術や多職種連携のあり方等の勉強会を行い、事例を通して自らのケアを振り返り、より良いケアの提供に努めてきた。

(1 4) ワーク・ライフ・バランスの充実

平成 30 年度も、職員の生活の充実がより良い介護サービスの提供に繋がると考え、職員アンケートや反省会での意見をもとに内容を検討しながら、ワーク・ライフ・バランスセミナーを 3 回開催した。職員から「暑さを乗り切る我が家の簡単レシピ」を募集し、32 品の応募の中から 6 品選び、レシピ発案者が講師となり調理イベントを実施したり、リンパマッサージの講師を招きセルフマッサージの講習会を開催したり、ボウリング大会も行い交流を図ることができた。参加した職員からも、普段話し合う機会の少ない他部署の職員とコミュニケーションの機会が持てて良かったとの声が聞かれていた。引き続き、次年度も「仕事と生活の調和」の一層の理解と職員の定着が図れるようにセミナーの充実に努めたい。

(15) 施設建物や設備の修繕、更新工事の実施

施設開設から15年が経過し、建物や設備が老朽化してきたことから、適切な収支計画に基づき改修・更新工事を実施した。

平成30年度は、故障していた居住棟エアコン空調設備の更新工事を行い、また、利用者居室外部ドアの結露に伴う腰パネル交換工事等も実施し、利用者が快適に暮らせるように住環境整備に努めた。

朝光苑デイサービスセンターはなおもい

(1) 利用者一人ひとりの要望や個別性を尊重したケアの推進

利用者およびご家族の意向を聴きながら心身の状況把握に努め、担当介護支援専門員からの居宅サービス計画に基づき、残存機能の維持・向上を目標とし通所介護計画を作成しケア提供に努めてきた。また、ひと時でも楽しく過ごせるように交流の様子を見守ってきたが、利用者が増え寛ぐ場所が手狭に感じられる日もあり、トラブルなく楽しんで過ごせるように注意していた。和室でマイペースに過される方もあり、集団での行動を強いることなく、利用者のペースを守るように努めてきた。

(2) 生活相談の充実

利用者および家族の生活面や介護方法等についての相談に応じるようにし、独居の利用者も多いため、不安や不自由な面などないか傾聴し、内容によっては担当の介護支援専門員と連絡調整を行ってきた。利用者の重度化により、ご家族の介護疲れの程度や状況によっては、特別養護老人ホーム朝光苑の短期入所利用を提案し、利用された方も増え、朝光苑職員と連携し在宅生活の支援に努めてきた。

(3) アクティビティを中心とした機能訓練の充実

利用者個々の有する能力や可能性を尊重するように努め、起居動作や移動、排泄面等において危険がないように見守り、軽体操や歩行訓練等の実施に努めた。

月間の行事計画を作成し、日々変化を持たせ参加しやすいように工夫を重ねてきた。音楽療法や計算や漢字の書き取り等の脳トレ的な活動に力を入れたり、制作や手芸等で完成させる喜びを感じていただいていた。また、園芸療法としてデイ前庭の畑に野菜栽培を行うと、毎日の成長を楽しみにされる姿が見られ、収穫時には料理作りも計画し、季節を味わうことができた。

(4) 安全で快適な入浴サービスの提供

自宅での入浴が困難になり通所利用される方が大半を占めているため、個々の身体能力や要望に応じ一般浴か特殊浴槽を選択し、危険なく入浴ができるように洗髪や洗身等の介助を行ってきた。利用者が自立性を失わないように更衣等を見守ったり、気持ち良く入浴できるように、入浴順等を配慮していた。

(5) 送迎サービス

利用者個々の心身状態を考慮し、地理的状況も検討しながら送迎車両の種類や送迎ルートを設定してきた。安全第一を念頭に置き、車両の定期的な点検・整備を行い、送迎中は運転担当者と声を掛けあい、シートベルトの着用や車椅子の固定を確認していた。雨や雪等の天候により乗降時にステップが滑りやすくなるため、必ず付き添い支えるようにし転倒を防止してきた。

(6) 食事サービスの充実

持病によっては熱量や塩分、生野菜や果物等の制限がある利用者も多くなり、徐々に咀嚼・嚥下能力が低下し、麺を摂取時に誤嚥した利用者があった為、利用者全員について食形態の見直しを行い、個々に対応した食事内容を検討していた。

折に触れて献立について意見を伺うと「おいしい」「鍋も楽しみだ」等と概ね好評をいただいているが、安全に摂取していただけるように注意しながら、定期的実施しているおやつや料理作り、行事食の内容についてもさらに充実させていく。

(7) 健康指導等による安定した状態の維持

利用者の健康状態把握のため、看護師によるバイタル測定や一般状態の観察を行い、発熱等の異常が感じられた時には、家族へ連絡し受診を勧める等の助言を行い、必要に応じては、水分摂取や便通コントロール等の生活指導を行ってきた。また、食前の嚥下体操の実施、食後は介助や見守りを行いながら口腔ケアを実施してきた。さらに感染症対策については、朝の到着時のうがいや手洗いの励行、インフルエンザ予防接種を勧め、職員の健康自己点検を徹底するなどの防護策に取り組んできた。

(8) 苦情解決事業の推進

利用契約時に利用者やその家族に苦情解決事業の内容を理解していただき、苦情受付担当者である生活相談員が中心となり苦情や要望を話しやすい環境作りに努めてきた。今年度は、利用者病院搬送時の対応について苦情が1件あり、ご家族や関係機関へ謝罪するとともに、利用者体調変化時の今後の対応に話し合いの機会を設けた。寄せられ苦情については、第三者委員で構成する苦情解決協議会に経緯を説明していた。また、利用者同士の物のやり取りに関して等、日々連絡帳等でご意見が聞かれる為、可能な限り検討し意向に沿えるように対応に努めたい。

(9) 防災管理体制の整備

火災や地震、風水害等の非常災害時には、利用者の安全を第一優先とし、迅速適切な対応に努めるため、年2回の避難訓練や防災訓練、防災管理研修会を実施し、防災管理体制の充実に努めた。

(10) 職員研修の充実

特別養護老人ホーム朝光苑内で実施している認知症介護、虐待防止、感染症対策、リスクマネジメント、褥瘡予防等の勉強会に参加し、職員の資質向上を図っていた。

また、月1回ミーティングを開催し、日々の利用者に対するケアの振り返りとともに事例検討を行ったり、行事計画を検討し、ケア内容の充実に努めていた。

送迎等の業務のため職員揃ってのミーティングの開催は時間が限られるため、記録や申し送り方法等を工夫し情報共有を行うことで利用者へのケアが統一できるように努めてきた。

Ⅲ 職 員 の 状 況

[特別養護老人ホーム朝光苑]

平成31年3月31日 現在

職 種	施設長	事務長	総務課長	事務員	事務員(パート)	運転員(パート)	管理栄養士	看護課長	(介護支援専門員)	生活相談員	機能訓練指導員	看護師	准看護師	看護補助員(パート)	介護課主任	(介護支援専門員)	介護課副主任	介護福祉士	介護員	介護福祉士(パート)	介護員(パート)	合計
人員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	23	1	1	3		44

[朝光苑が伊ビセンターはなおもい]

職 種	兼 (特養施設長兼務) はなおもい管理者 看護師	生活相談員兼	介護福祉士	生活相談員 (特養事務員兼務)	介護福祉士	介護員	機能訓練指導員 看護師(パート)兼	介護員(パート)	合計
人員	(1)	2	(1)	2	3	1	2	10 (2)	

※ () 兼務

IV 事業実施内容

1 事業の実施状況

項目	実施期間又は回数		事業内容		
	日付	行事名	場所	参加人員	
(1) 行 事	平成30年 4月11日	喫茶店	多目的ホール	30名程度	
	24・25日	お花見ツアー	合浦公園	15名	
	5月11日	大相撲星取り3月場所表彰式	多目的ホール	4名	
	16日	喫茶店	〃	30名程度	
	23日	園芸療法(花植え)	〃	18名	
	6月13日	日帰りツアー(買い物)	サポート	7名	
	20日	喫茶店	多目的ホール	30名程度	
	27日	日帰りツアー(買い物)	サポート	4名	
	7月6日	大相撲星取り5月場所表彰式	多目的ホール	5名	
	11日	喫茶店	多目的ホール	30名程度	
	28日	納涼夏祭り	〃	全員参加	
	8月7日	ねぶた観覧ツアー	クラウンパレス青森	8名	
	15日	スイーツバイキング	多目的ホール	30名程度	
	9月7日	大相撲星取り7月場所表彰式	〃	6名	
	12日	敬老会	〃	全員参加	
	19日	園芸療法(ミニフラワーアレンジメント)	〃	17名	
	10月10日	喫茶店	〃	30名程度	
	12日	松原保育園慰問	〃	45名程度	
	17日	紅葉ツアー	萱野茶屋	15名	
	11月3日	文化祭	多目的ホール	全員参加	
	9日	大相撲星取り9場所表彰式	〃	4名	
	12月12日	園芸療法(水耕栽培)	〃	19名	
	19日	クリスマス会	〃	全員参加	
	28日	大相撲星取り11場所表彰式	〃	5名	
	平成30年 1月9日	喫茶店	〃	30名程度	
	23日	新春ゲーム大会	〃	35名程度	
	2月1日	節分	各ユニット	40名程度	
	13日	スイーツバイキング	多目的ホール	30名程度	
	20日	ハーモニカ演奏会	〃	35名程度	
	3月13日	喫茶店	〃	30名程度	
		大相撲星取り1場所表彰式	〃	6名	
	20日	カラオケ大会・居酒屋	〃	35名程度	

	日付	内容	慰問者・ボランティア
(2) 慰問・ボランティア	平成30年 5月23日	園芸療法(花植え)	あおもり園芸療法研究会 1名
	7月28日	納涼夏祭り	横内婦人部 5名
			合子沢婦人会 5名
			県庁ねぶた囃子方 18名
	9月 2日	地域防災協力隊避難訓練	地域防災協力隊 45名
	19日	園芸療法(ミニフラワーアレンジメント)	あおもり園芸療法研究会 1名
	10月12日	松原保育園慰問	松原保育園 園児 34名
	12月12日	園芸療法(水耕栽培)	あおもり園芸療法研究会 1名
	19日	クリスマス会	つばさ保育園 園児 15名
	2月20日	ハーモニカ演奏会	あおもり園芸療法研究会 1名
(3) 会議・理事会・評議員会等	日付	内容	
	毎週金曜日	ケアカンファレンス・入所検討会議	
	毎月 第3火曜日	献立会議・事業推進会議	
	毎月 第4水曜日	全体会議	
	毎月 1回	総括ケア部会議・勉強会	
	〃	総括ケア部会代表者会議	
	〃	三者会議	
	隔月 1回	ユニットリーダー会議・勉強会	
	4月、11月、3月	苦情解決協議会	
	7月、11月、2月	リスクマネジメント委員会	
	6月、9月、12月、3月	感染症対策委員会	
	5月、10月、1月	褥瘡対策委員会	
	6月、9月、12月、3月	身体的拘束等適正委員会	
	毎月 1回	医療的ケア推進安全対策委員会	
	平成30年 5月 8日	自己評価会議	
	9日	決算監査会	
	6月 9日	家族会「朝光会」	
		地域交流懇談会(1機関10団体)	
	5月17日	第1回 理事会	
	6月 7日	第1回 評議員会	
11月16日	第2回 理事会		
平成31年 3月 8日	第3回 理事会		
3月15日	第2回 評議員会		
(4) 保健衛生	平成30年11・12月 週1回(月曜日) 週1回(木曜日)	健康診断・インフルエンザ予防接種、ノロウイルス予防月間 嘱託 医 中道 静郎(内科)による診療 協力医療機関 ミナトヤ歯科による診療	

(5) 防災訓練	平成30年 6月13日	① 総合防災避難訓練	利用者 6名参加 職員 19名参加			
	9月 2日	② 地域防災協力隊避難訓練	隊員 48名参加 職員 8名参加			
	10月10日	③ 夜間想定避難訓練	利用者 6名参加 職員 3名参加			
	12月 4日	④ 緊急連絡網伝達訓練	職員 42名参加			
	平成31年 2月 1日	⑤ 災害伝言板使用訓練	職員 40名参加			
	(6)機能訓練		機能回復訓練指導員による訓練	延べ 0名参加		
(7) クラブ 活動 状況	クラブ名	実施日	平成29年度		平成30年度	
			実施回数	延べ参加者	実施回数	延べ参加者
	音楽クラブ (音楽療法)	毎月1回	12回	約300名	12回	約300名
	園芸クラブ (園芸療法)	年4回	約4回	約72名	約4回	約72名
	遊びリテーションクラブ	随時	随時	全員対象	随時	全員対象
	映画クラブ	随時	随時	全員対象	随時	全員対象
	大相撲星取りクラブ	場所毎	6回	33名	6回	25名
喫茶クラブ	月1回	12回	約360名	12回	約360名	